

2023年 明石塾活動報告(7月~9月) 第22期生の活動が始まりました

7月29日(土)に入塾式が行われ、男子5名、女子16名の計21名(学校数9校)の活動がスタートしました。7ヶ月間にわたり、塾生たちは県立女子大学の教授陣による講義や、外国語教育研究所研究員による英語研修、県内・県外フィールドワークや東南アジア海外研修を通して、発言力や行動力を身に付け、国際的な視野を養っていきます。

2023年度
明石塾
研修計画

日付	曜日	午前研修・講義 (10:00~12:30)	午後研修・講義 (13:30~16:00)
7月29日	土		(13:00) 入塾式 (13:40) 懇談会
8月1日	火	英語研修① Dermot McSweeney 研究員/ David Sakai 研究員 Get-to-Know Each Other Activity	【講義①】国際コミュニケーション学部 日詰慎一郎教授「グローバルな舞台での活躍を目指す君と考える 「リーダーに求められる行動」とは?~リーダーシップの基礎理論~」
8月2日	水	Introduction (江原副所長・金岡主幹) 海外研修について (JTB)	【講義②】群馬学センター 築瀬大輔教授「群馬のグローバルスタンダード・3題」
8月3日	木	英語研修② Mark Yoshida 研究員 Appearance and Stereotypes	【講義③】文学部文化情報学科 一階千絵准教授「オリンピックのあゆみ」
8月4日	金	英語研修③ Milena Kanna 研究員 Non-verbal Communication	【講義④】文学部英米文化学科 小林徹教授「視覚の台頭、あるいは、文化を学ぶ理由」
8月7日	月	英語研修④ Dermot McSweeney 研究員 Japanese Identity	【講義⑤】文学部国文学科 鈴木崇大准教授「万葉集」とその時代」
8月8日	火	英語研修⑤ David Sakai 研究員 Cultural Drift and Migration	【講義⑥】国際コミュニケーション学部 細井洋伸教授「Intercultural Communication」
8月21日	月	県内フィールドワーク (太陽誘電 R&D)	
8月26日	土	英語研修⑥ Timothy Witherow 主任研究員 Population Growth	夏休み大学講義のまとめ 江原副所長
9月9日	土	英語研修⑦ Harry Meyer 研究員 Japan's Aging Society and Immigration	県内フィールドワークのまとめ 江原副所長
9月16日	土	英語研修⑧ Harry Meyer 研究員 Globalization and How It Affects Japan	研究所職員講義 金岡主幹

入塾式及び塾長との懇談会(7月29日)

小林良江塾長は「今年度は海外研修なども含む、通常通りの明石塾を開催できることになりました。皆さんも名誉塾長の明石康先生のように高い志、国際的な視野をもち、そして国際舞台で堂々と発言や行動ができる人材になってほしいと思っています。」と式辞を述べました。

入塾生代表の品川陽々稀さん(前橋女子高等学校2年)は、映画監督ウディ・アレンの言葉「成功の80%は、その場に現れることだ」を引用して、「グローバルリーダーになりたいと思ってここにいる私たちは、すでに成功の80%を達成しているのかもしれませんが、しかし、80%はゴールではなく、100%の途中にいるということです。私は残りの20%を少しでも満たすために、明石塾を通して、学校の授業だけでは身に付けることのできない知識を身につけ、一人でニュースや新聞を読んでいるだけでは気付くことができない多様な考えを、仲間とのディスカッションを通して見つけていくことを重視していきたいです。」と挨拶しました。



小林良江塾長式辞



塾生代表挨拶



入塾式の様子

入塾式後、小林良江塾長との懇談会が行われました。塾生は自分の趣味や特技、明石塾の志望動機や今後の抱負について発表したり、これから世界で活躍するうえで身に付けるべき力について意見交換をしたりして、有意義な懇談を行いました。懇談会の一部をご紹介します。

【小林塾長】 私たちの文化は、年上の方や学校の先生がお話をしていたら、それをお聞きする、傾聴する、聞くことが大切と子供の頃から習ってきました。ところがそういう文化は実はアジアの一部分なのです。聞く、傾聴するということも凄く大事ですが、それ以上に大切なのが自分の意見をもつことです。一年間海外に留学していたAさん、留学先ではどうでしたか?

【塾生A】 生徒も授業の中でどんどん意見を言いますし、先生の方から問いかけられることも多くありました。

【小林塾長】 「質問はありませんか?」と言われて質問がなかったら、内容はしっかり理解したとしても、質問も出ない、意見も言わないと思われてしまう。この状況になると、海外ではどんな反応でしたか?

【塾生A】 実際にマレーシアに行った当初はそういう状態だったので、何も理解していないとみなされて、もう一度丁寧に説明を直していただきました。

【小林塾長】 そうなのです。理解していないと判断されてしまうのです。つまり、もし意見も言わず、質問もしなかったら、相手にされなくなってしまうということになるのです。日本人はそういう訓練を受けていないので、海外に出て最初にぶつかる壁なのではないかと思います。明石塾は、皆さんの意見や話を聞く機会がかなり多いと思います。質問力というのは非常に大切なので、まずはこの明石塾で質問をする力を付けてください。



塾長との懇談風景

本学教授陣による講義 (8月1日～8日)

夏季研修では、本学教授陣の専門分野に関する講義を6日連続で受講しました。塾生たちは、互いの意見を交換し合ったり、自分の考えを発表したり、先生方に積極的に質問をしたりして、意欲的に受講しました。担当の先生方は「いい質問だね」と塾生からの質問に真剣に答えてくださいました。大学の本格的な講義を受けて、塾生たちは様々な立場から物事に向き合う姿勢を身に付けていきました。



「グローバルな舞台での活躍を目指す君と考える「リーダーに求められる行動」とは?〜リーダーシップの基礎理論〜」
日詰慎一郎教授 (国際コミュニケーション学部)



「群馬のグローバルスタンダード・3題」
築瀬大輔教授 (群馬学センター)



「オリンピックのあゆみ」
一階千絵准教授 (文学部文化情報学科)



「視覚の台頭、あるいは、文化を学ぶ理由」
小林徹教授 (文学部英米文化学科)



「『万葉集』とその時代」
鈴木宗大准教授 (文学部国文学科)



「Intercultural Communication」
細井洋伸教授 (国際コミュニケーション学部)

【塾生の「気づき」や「学び」】 * 「ふり返しシート」から一部抜粋

- ・リーダーシップの基礎理論を学んで、これから高校で生徒会長としてどうやっていこうか、自分の中で整理がつきました。自分の尊敬するリーダーを目指すと同時に、パフォーマンスも備わったリーダーにならなければいけないと学びました。
- ・群馬学の講義を受けて、海に面していない群馬であっても、色々な方面で世界との繋がりがあったということ、そして現代でも世界的に評価を受ける文化があるということを知りました。身近に世界水準のものがあることを感じることで、これから自分が発信する側に立つためのきっかけができました。
- ・オリンピックを政治的にボイコットすることは、多くの選手の競技人生に影響を及ぼしたことを学びました。オリンピックは古代から途切れず開催されているものだと思っていたので、近代になって多くの人々の努力で、戦争や地域問題を乗り越え、行われていることを知ることができました。
- ・視覚が重要視される世界でどう生きるのがいいかについて考えさせられました。また、「文化を学ぶことは普段気づかれにくい自分自身の在り方に気づくことである」という言葉が印象的でした。
- ・「万葉集はその時代を生きた人々のドキュメントである。」という言葉がとても印象に残っています。講義を受けて、万葉集には政治のドラマティックな争いが書かれていることが分かり、ドラマを聞いているみたいでとても面白かったです。
- ・具体的な文化の違いを学ぶだけでなく、違いがあるということ意識することが大切だ、という先生の考え方がすごく印象に残っています。将来外国と直接関わる仕事に就きたいと考えているので、相手のコミュニケーションの習慣やマナーを知らないといけないことに気がつきました。

研究員による英語研修

研究員による英語研修では、文化、コミュニケーション、国際問題等をテーマにした英語講義を受け、塾生同士で議論します。研修はすべて英語で行われ、塾生が世界の舞台で活躍するために必要なコミュニケーション力や歴史的、文化的背景知識を身に付けていきます。



Timothy Witherow 主任研究員



Mark Yoshida 研究員



Dermot McSweeney 研究員



Milena Kanna 研究員



David Sakai 研究員



Harry Meyer 研究員



英語研修の様子



高等学校連携英語授業 高校生の英語力向上を支援します

高校生の英語学習に対する意欲の向上や、大学での学びに対する意識喚起、新学習指導要領改訂に対応したカリキュラムの改編に伴う特色ある学校作りを目的として、高等学校連携英語授業を実施しています。

今年度は高崎経済大学附属高校、高崎商業高校、沼田女子高校、伊勢崎高校の4校で実施しています。

環境問題やコミュニケーション、文化やアイデンティティーなどについて、議論や発表などの活動を行いました。研究員の親身な指導により、高校生たちの緊張も徐々に和らぎ、英語を自然に使っている様子が見られました。



高崎経済大学附属高校



高崎商業高校



沼田女子高校



伊勢崎高校

企業英語研修 ビジネスの現場で活かせる英語を身に付けます

企業との連携を通して地域社会に貢献するため、研究員による英語研修を行っています。4月11日(火)には、サンデン株式会社の新入社員研修において、英語研修を実施しました。自己紹介や相手紹介の活動が始まると、社員の皆さんが積極的に英語を使ってコミュニケーションをとり始め、会場が活気にあふれました。また、ペアワークやチーム戦での活動を通して、職場での様々な役職名や役職に応じた依頼の英語表現を学習しました。



Milena 研究員による指導



Mark 研究員による指導



研修の様子

留学支援 長期留学13名、短期研修13名が海外へ

コロナによる渡航制限がようやく緩和され、今まで海外留学を断念せざるを得なかった県女生の夢が続々と実現しています。奨励金の支給や留学情報の提供、各種説明会や諸手続についての相談などを随時行い、留学を希望する県女生を全力でバックアップしています。

【前期出発長期留学】

	国名	大学名	期間	人数
1	台湾	国立高雄科技大学(交換留学)	6ヶ月	1
2	カナダ	トンブソン・リバーズ大学	1年	2
3	ニュージーランド	ワイカト大学	1年	1
4	オーストラリア	インバウト・イングリッシュ・カレッジ (ブリスベン校)	6ヶ月	1

【後期出発長期留学】

	国名	大学名	期間	人数
1	マレーシア	マラヤ大学(交換留学)	6ヶ月	1
2			1年	1
3			6ヶ月	2
4	カナダ	トンブソン・リバーズ大学	1年	1
5			レスブリッジ大学	1年
6		CCEL カナディアン・カレッジ	7ヶ月	1
7	オーストラリア	クイーンズランド工科大学	10ヶ月	1

【夏季短期研修】

	国名	大学名	期間	人数
1	オーストラリア	グリフィス大学附属英語学校	5週間	3
2		ロイヤルメルボルン工科大学 附属英語学校	5週間	6
3	韓国	延世大学 言語教育院 語学堂	3週間	2
4	マルタ	クラブクラス	6週間	1
5	カナダ	バンウエスト カレッジ	4週間	1

(R5.8.31時点)



ニュージーランド留学の様子

群馬県親善学生大使委嘱状交付式(7月14日)

留学支援プログラムを利用して海外留学を行う学生は、群馬県の親善学生大使を委嘱されます。7月14日(金)に群馬県親善学生大使委嘱状交付式を実施し、長期留学後期出発参加者及び夏季短期研修参加者が出席しました。9月からマレーシアのマラヤ大学で交換留学生として学ぶクリバリー・カディージャさん(国際コミュニケーション学部2年)が、「本学で学んだ知識を留学先でさらに深め、異文化交流を通して人間的にも成長して、県親善学生大使として群馬県の魅力を伝えます。」と決意表明をしました。



学生に群馬県親善学生大使委嘱状を渡す
小林良江学長



学生大使代表挨拶
(クリバリー・カディージャさん)



学生大使への激励の言葉(内田善規事務局長(右)、
ロドニー・ビドル国際交流委員長(左))

English Help Desk 英語学習でお悩みの県女生をサポートしています!

English Help Deskでは、研究員が本学学生を直接指導し、学生の英語力向上を支援しています(支援内容によっては、研究所係員(日本人)が指導する場合もあります)。定期的な英会話指導や、英作文の添削指導をはじめとした英語のあらゆる悩みに対して、研究員が丁寧に状況を聞き、マンツーマンでの指導や、グループでの指導など、内容に応じて効果的に指導を行っています。学部・学科を問わず多くの学生が利用しており、4月から8月までの相談者数は288名と、昨年度を大きく上回っています(R4年度同時期158名)。今後も研究所の人的資源を最大限活用し、学生たちの英語に関する課題解決を支援してまいります。

学生への指導の様子



グローバルカフェ 4年ぶりの通常実施となりました



研究員と気軽に英会話を楽しむことが出来る「グローバルカフェ」を今年度は通常どおり実施することになりました。第I期(5月~7月計8回実施)には、約40名の幅広い年齢層の方にご参加いただきました。参加者からは、「最初はとても緊張しましたが、徐々に慣れて、会話を楽しむことができました。」や「グローバルカフェの再開をずっと楽しみにしていました。英語を使ってコミュニケーションをとる楽しさをあらためて感じました。」などの声があがりました。第II期を10月から12月、第III期を1月から2月に実施する予定です。今後も県民の皆様へ国際交流の機会を提供し、地域に貢献してまいります。

外国語教育研究所 新旧所長挨拶

前所長 小林良江



2017年10月の学長就任から6年の月日が経ち、この9月末で学長職を退任いたしました。在任中は外国語教育研究所所長を兼任し、親善学生大使委嘱状交付式や高校生対象の明石塾などの様々な事業にも参加し、またグローバル・カフェやEnglish Help Desk、小学校・高校での英語教育支援の様子にも触れてまいりました。これらの事業では、本学の学生はもちろん、地域の皆様方が笑顔で英語に接している姿を拝見し、外国語教育研究所の存在の重要性が単に大学内に留まらないことを実感しました。様々な事業を実施して下さった研究所の皆様方に、またご参加いただきました皆様方に深く感謝いたします。

3年ほど前から卒業生を中心に学内外の方々とお話し、大学のウェブページに掲載してきました。そのむすびの部分において、「学生時代にしておけば良かったこと」をお聞きしたところ、ほぼすべての方が「英語力を身に付けること」と「海外研修・留学」と仰っていました。その理由として、より高い英語力は社会人としての選択肢を広げること、そして時間的制限を持つ社会人には海外研修・留学が困難であることの2点を挙げていらっしゃいます。この「英語力の向上」と「海外研修・留学」の業務を担当しているのが本学の外国語教育研究所でございます。当研究所は本学の学生にとりまして必要不可欠な重要な組織といえます。今後の外国語教育研究所の更なる発展と研究所に関わるすべての皆様方の活躍を祈念し、私の挨拶といたします。

新所長 塩澤寛樹



2023年10月1日に、学長に就任しました塩澤寛樹と申します。外国語教育研究所所長も兼任いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。当研究所は2001年に元国連事務次長の明石康先生を初代所長に迎えて以降、22年にわたり本学学生への留学支援や英語指導、高校生人材育成事業「明石塾」、国際交流の機会を提供するために「グローバルカフェ」など、学生、学校現場、県民の皆様へ支援を積極的に行ってまいりました。群馬県の外国語教育の拠点として、これまで以上にご多くの方から「頼られる研究所」にするべく、全力で取り組んでまいりますので、皆様の御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

【令和4年度末人事異動】

(転出)	職名	氏名	新所属等(職名)	(転入)	職名	氏名	旧所属等(職名)
	副所長	町田 邦江	中央中等教育学校(教頭)		副所長	江原 悠一	(主幹(総括)から昇任)
	嘱託	田中 まり	退職		主幹(総括)	金岡いずみ	高崎女子高等学校(教諭)
					主幹専門員	武藤 仁志	西邑楽高等学校(校長)

